

## 「軽金属」執筆要領

一般社団法人 軽金属学会 編集委員会

一般社団法人軽金属学会（以下、「本学会」という）の会誌「軽金属」に投稿する場合の執筆方法は、この要領に基づくものとする。

「研究論文」・「研究ノート」・「技術報告」の執筆は第1章に、それ以外の「解説」等の執筆については第2章によるものとする。

### 第1章 「研究論文」・「研究ノート」・「技術報告」

基本事項
------

#### 1. 原稿の種類

##### 1.1 研究論文

軽金属およびそれにかかわる分野に関する独創的な学術ならびに技術の研究成果について、価値ある結果を含み、かつ十分考察されているもの。

##### 1.2 研究ノート

特に速報性の必要な論文で、軽金属およびそれにかかわる分野に関する学術あるいは技術の新しい知見やデータ、他の論文に対する意見や討論などを記述したもの。

##### 1.3 技術報告

軽金属およびそれにかかわる分野に関する実験技術、現場技術などをまとめたもの、および軽金属工業に関連する事柄の調査、試験などを報告したもの。

#### 2. 投稿の方法

原稿投稿にあたっては、投稿審査システムに登録し、投稿審査システムを通じて原稿を投稿する。投稿審査システムにアップロードできるファイル種別は Word、RTF、TXT、LaTeX2<sub>ε</sub>（英語のみ）、AMSTeX、TIFF、GIF、JPEG、EPS、Postscript、PCT、PDF、Excel、PowerPoint であるので、原稿作成時にはファイル種別に注意する。

#### 3. 原稿の形式、長さ

3.1 原稿は、原則として、A4判の用紙に、1ページ 27 字×26 行とし、行間を十分に空けて印字する。ページ番号をつける。

3.2 英文の場合、A4判の用紙に1ページ 60 ストローク×25 行とし、ダブルスペースでタイプする。

- 3.3 和文原稿 4 枚、英文原稿 3.5 枚が刷上り 1 ページに相当する。刷上りで横 80mm、縦 100mm (説明文含む) の図および表は、1 枚当たり 0.2 ページに相当する。表題、著者名、英文概要で約 0.5 ページに相当する。
- 3.4 原稿の刷り上がりページ数は、次の通りとする。
- (1) 研究論文 : 原則として 5 ページ以内。8 ページまで認めることがある。
  - (2) 研究ノート : 2 ページ以内 (必須)
  - (3) 技術報告 : 5 ページ以内 (必須)

#### 4. 原稿の順序

原稿は、 題目、 著者名、 著者の所属機関、 英文概要、 **Keywords**、  
本文 (参考文献を含む) 図表説明文一覧、 図表の順で並べる。

- 4.1 題目は、簡潔でしかも論文の内容を適切に表すようにする。  
副題をつけたり、‘第 報’のように連続報文としない。  
‘～に関する研究’、‘～について’等の表現は用いない。  
題目には、原則として略語、略称ならびに商品名は用いない。  
元素記号は、化学記号として用いる場合を除いて用いない。  
例: × Al 材料、 Al-Mg-Si 系合金
- 4.2 和文題目と内容が一致する英文題目をつける。  
冠詞はできるだけ省略する。
- 4.3 著者名は、姓・名とも略さずに記入する。英文表記には各著者慣用の著者名を用い、姓と名が区別できるように、姓はすべて大文字で記入する。
- 4.4 所属機関名は、研究を行なった機関名を記入する。  
現所属が研究時と異なる際には〔 〕内に現所属を併記する。  
学部学生、大学院生の別を明記する。  
所属機関の所在地は、郵便番号、番地等を省略せずに記入する。
- 4.5 英文概要は、研究論文についてのみ作成し、本文を読まなくても内容の要点が理解できるようにする。  
150~200 語程度、1 パラグラフとし、米語を用いる。
- 4.6 **Keywords** は、論文の主題を適切に表現し、情報検索の際の **Keywords** になるように、米語で 5 語句以内を記す。

#### 5. 本文

- 5.1 原稿は、常用漢字、現代かなづかいによる簡潔な口語体で記述する。日本語のかな書きはひらがなとする。
- 5.2 見出しは、章: 1. 節: 1.1 項: 1.1.1 とする。
- 5.3 本文中の述語は、原則として文部科学省制定の学術用語集および JIS 規格の用語集による。商品名の使用はできるだけ避ける。
- 5.4 数量の単位は S I 単位系を用いる。
- 5.5 参考文献は、通し番号をつけて本文の最後の一括して記述する。引用番号の数字は該当する箇所の右肩に半括弧つきで入れる。例: 1) 1), 2) 1)~5)

## 6．図表説明文

- 6．1 図、表の説明ならびに図、表に含まれるすべての用語は、米語を用いた英文とする。説明文は、できるだけ本文を読まなくても理解できるようにする。
- 6．2 図と写真は区別することなく図として数え、Fig.1、 Fig.2 とし、表は、Table 1、Table 2 とする。
- 6．3 表の説明文は表の上に、図の説明文は図の下に記入する。大文字ではじめ、ピリオドで終わる。

## 7．図、表

- 7．1 図および表は、1 図表ずつ、原則として 1 ページに作成する。
- 7．2 図原稿は直接製版に使用するので、不相当と判断されたものは著者に訂正を求める。
- 7．3 図の大きさは、縦軸の単位、文字も入れて、最大刷上り寸法が横 80mm（片段）または 160mm（両段）とする。図原稿の縮尺は著者が指定する。（ただし、指定通りの縮尺にならない場合もある。）
- 7．4 カラー印刷を希望する図には、その旨明記する。

## 8．投稿に関する問合せ先

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-2-15 塚本素山ビル  
一般社団法人 軽金属学会 編集委員会  
Tel 03-3538-0232 Fax 03-3538-0226  
E-mail:jilm1951@jilm.or.jp

## 9．著作権

- 9．1 他の執筆者が発表した文章、データ、図、表、写真等を引用するときは、著作権に抵触しないよう著者の責任において対処する。
- 9．2 「軽金属」に掲載された原稿の著作権は、『2420 著作権規程』に基づき本学会に帰属する。

表記方法等に関する注意
-------------

- 1．英文は米語とし、特に aluminum とし aluminium としない。
- 2．外来語はカタカナを使用する。適当な日本語がある場合は日本語にする。ただし外国人名は原語で書く。  
原語（特に英語）の綴りの終りが er、or 等で、カタカナ 3 字以上のときは、末尾に長音記号をつけない（例：シリンダ、コンピュータ、ウィスカ）。ただし、地名にはつける。

2 字の場合は一般に長音記号をつけるが、慣例としてつけない場合もある（ギヤ）。原語の綴りの終りが gy、py 等は長音記号をつける（エネルギー、エントロピー）。一方、ty の場合はつけない（ポロシティ）。

- 3 . 元素名は、日本語で書くことを原則とするが、元素、原子、分子あるいは合金等を示す場合には化学記号を用いてもよい。

ただし、1 元素だけを示す合金は日本語で書く：アルミニウム合金（Al 合金としない）。また、2 元系以上の多元系合金の場合は化学記号を用いる：Al-Zn-Mg 合金。

JIS などに規定されている合金の名称を用いる場合は、主金属系がわかるようにするため、次のように書く：1100 アルミニウム、AC4C アルミニウム合金、AZ91 マグネシウム合金。なお、本文中で繰返し使う場合は最初だけ書き、その後は JIS などの記号のみでもよい。

- 4 . 注は、すべて脚注とし、各ページごとに本文中に星印（\*1、\*2）で示す。脚注を付記する場合は、原稿の枠内に横線で区別して書き、‘脚注’と明記する。

- 5 . 数量を表す文字は、定数、変数ともにイタリック体を用い、数量単位、数学上の記号、数値はローマン体を用いて書く。

量記号（イタリック体）：長さ  $L$ 、面積  $S$ 、体積  $V$ 、圧力  $P$ 、力  $F$

定数（イタリック体）： $K$ 、 $N$

数量単位（ローマン体）：m、Pa、s

数学記号（ローマン体）：exp、log、sin

- 6 . 数式は、分母、分子が明らかになるように書く。 $(A+B)/(C+D)$  を  $A+B/C+D$  としない。

1 行の式中に斜線を 2 本用いない。 $A/B / C$  は、 $A/(BC)$ 、 $A/(B \cdot C)$  あるいは  $AB^{-1}C^{-1}$  とする。

- 7 . 図、写真、表の使用は、必要最小限にとどめ、図と表の重複は避ける。

図原稿は刷上り寸法の 2～3 倍の大きさに（両段の場合は 1～2 倍）、図中の文字は縮尺を考慮して刷上り 2mm 程度の大きさ、線の太さは 0.2～0.4mm 程度の大きさになるようにする。

図中に余白を大きくとらないよう、また、軸の説明文字を図からあまり離さないよう注意する。

図中の記号等の説明はキャプションとせず、なるべく図中に収める。

- 8 . 参考文献の記載は次の例示のようにする。なお、著者名は和文の場合、フルネームで書くこと。

雑誌の場合 著者氏名：雑誌名，巻数（発行年），ページ。

山田太郎：軽金属, 41(1991), 100-105.

J. J. Nutting：Mater. Trans., 52 (2011), 51-56.

#### 単行書の場合

山川次郎：アルミニウムの基礎と工業技術，編集 村上陽太郎，軽金属協会，(1958), 427-450.

P. R. Swann and J. D. Embury : High Strength Materials, ed. by V. F. Zackay, John Wiley & Sons, (1991), 300-320.

#### 外国雑誌の略名は、Core Journals Covered in CAplus

( <http://www.cas.org/expertise/cascontent/caplus/corejournals.html> ) の記載に準じる。

## 第2章「解説」等

### 1. 原稿の種類

#### 1. 1 解説

軽金属およびそれにかかわる分野に関する学術ならびに技術について解説したもの

#### 1. 2 連載講座

軽金属およびそれにかかわる分野に関する学術ならびに技術について、特定のテーマのもとで数号にわたり継続して基礎的に解説したもの

#### 1. 3 LMレビュー

軽金属およびそれに限らず、製造の現場や製品に近い技術をわかりやすく解説したもの

#### 1. 4 随想

会員の日頃の考え、回顧、海外滞在記、学会ならびに会誌に対する意見等

#### 1. 5 LMコラム

若手会員の日頃の考え、研究の中でのエピソード、留学体験記、学会ならびに会誌に対する意見等

#### 1. 6 国際会議便り

参加した国際会議の報告、印象、体験記等

#### 1. 7 研究所 / 研究室紹介

親しみやすく読める研究所や研究室の自己紹介

#### 1. 8 はぐくむ

若手会員、学生会員および将来の会員の教育あるいは人材育成に関する活動の紹介等

#### 1. 9 新製品紹介

新製品開発の動機、経緯、苦労話等。技術面にも触れつつ、多少の宣伝色も可。

#### 1. 10 その他

編集委員会が掲載を認めた上記以外の記事。掲載可否を編集幹事会で判断する。

## 2 . 投稿の方法

第 1 章      基本事項    2 . 投稿の方法に準じる。

## 3 . 原稿の形式、長さ

3 . 1    原稿の形式は原則として、第 1 章の    および    に準じる。ただし、英文概要は不要、**Keywords** は解説のみ米語で 5 語句以内を記す。図表の説明ならびに図表内の用語は和文とする。

3 . 2    原稿の刷り上がりページ数は、次の通りとする。

- |               |              |
|---------------|--------------|
| (1) 解説        | : 原則 7 ページ以内 |
| (2) 連載講座      | : 原則 7 ページ以内 |
| (3) LM レビュー   | : 原則 4 ページ以内 |
| (4) 随想        | : 2 ページ以内    |
| (5) LM コラム    | : 2 ページ以内    |
| (6) 国際会議便り    | : 1 ~ 2 ページ  |
| (7) 研究所/研究室紹介 | : 2 ページ      |
| (8) はぐくむ      | : 1 ~ 2 ページ  |
| (9) 新製品紹介     | : 1 ページ      |

以上